

2018年10月02日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【相場の「アヤ」の正確な予測は不可能】

上昇トレンドなら上昇方向へ、下降トレンドなら下降方向へ、トレンドに沿った大きな相場の流れに対して、逆らうようにトレンドと反対に動くことを「アヤ」といいます。

「アヤ」は、漢字では「綾」と書きます。

「アヤ」が事前に分かれば良いのですが、それを予測することはほとんど不可能です。

いつ起こるのか、どこまで逆行するのか、いつまで続くのかは、誰もが知りたいことですが、誰にも分かりません。

そのため大きな「アヤ」をトレンド転換と見誤ったり、大きな「アヤ」のせいでストップ・ロスがついた、という経験をした投資家も多いでしょう。

とはいえ、ドル/円で何十銭の単位の反対側の「アヤ」といわれて納得できても、1円、2円も動いた状態までも「アヤ」と呼んで良いのか?——そんな疑問を持つ投資家もいることでしょう。

しかし、私は5円程度の逆行は「アヤ」だと解釈しています。

つまりFX取引では、その程度の「アヤ」は織り込んでおかなければならないということです。

繰り返しますが、「アヤ」はいつ起こるのか、どこまで逆行するのか、いつまで続くのかわからない。

ところがチャートを見ていると、必ずではないけれど、かなりの確率でトレンドとは逆に相場が動く時間帯があることがわかります。

結論から先に言えば、これは「アヤ」ではありません。

例えば、東京市場は日本時間(以下同じ)で8時、9時ごろから活発になります。

基本的に東京市場はニューヨーク市場の値動きの後追いなので、ニューヨークが下落すれば売る、上昇すれば買うという動きをします。

東京市場で午後の取引が行われている15時、16時ごろになると、ロンドン市場が開きます。

そのときは東京市場の相場の流れとは反対側に大きく動くので、一見「アヤ」のようですが、実はロンドン勢が東京勢のストップ・ロスを狙って仕掛けた動きであることが多いのです。

正確な「アヤ」は誰にも分からないけれど、FX取引の経験を積んでいくとなんとなく「アヤ」ではないかという感覚は養われます。

ただそうした目分量的なものは、言葉では説明のしようがありません。

+++++

(2018年10月02日東京時間15:15記述)